

在セネガル日本国大使館月報

2023年7月

主な出来事

セネガル

(内政)

- 1日、サル大統領は、自身の三選出馬を期待する地方自治体の首長らに対して3日に国民向けメッセージを出すことを表明し、3日、演説を行った。そこで、憲法上許容されるとしても三選出馬はしない意志を表明した。(3日 Le Soleil)
- 28日、野党のソコPASTEF党首は、国家に対する内乱罪、国家権力に対する陰謀等の罪で逮捕された。それを受け同党首はハントを実行することを表明した。(29日 APS、31日 Walf Quotidien)
- 31日、ジヨム内務大臣は、暴動を呼びかけ死傷者を含む重大な人的・物的被害をもたらしたことを理由に、政党PASTEFを解体することを公表した。(31日 APS)

(外政)

- 28日、第2回ロシア・アフリカ首脳会合出席のためロシアを訪問中のサル大統領は、プーチン大統領と会談し、両国の友好関係の強化、ウクライナの穀物輸出について協議した。(28日 大統領府 Twitter、APS)

(経済)

- 6日、アブドゥ・ジュフ国際会議場(CICAD)で投資フォーラム「Invest in SENEGAL」が開幕し、73か国から約3,500名が参加した。サル大統領は開幕式でアフリカとセネガルへの投資促進を呼びかけた。7日、バ首相は閉会式で本フォーラムを機に3億1,500万ユーロの合意が成立したとの総括を行った。(7日 Le Soleil、8日 L'Observateur)

ガーボベルデ

- 20日、ルラ・ブラジル大統領は、プライアにてネーヴェシュ大統領と会談を行った後、メディアに対し近年ブラジルはアフリカ大陸と疎遠になっていたが、今後は生産的な関係を築いていくとの発言を行った(20日 Expresso das Ilhas)
- 26日、ネーヴェシュ大統領及びコレイア・エ・シルヴァ首相は、ロシアによるウクライナ侵攻を非難しつつ、第2回ロシア・アフリカサミットに参加しないことを公表した。

ガンビア

- バロウ大統領は、サル・セネガル大統領の三選不出馬の決定について、勇敢な決断であると賞賛し、セネガル、西アフリカ地域、さらにはアフリカの民主主義を強化するものと評した。(5日 The Point)

ギニアビサウ

- 9日、ビサウにて第63回ECOWAS首脳会合が開催され、エンバロ大統領兼ECOWAS議長は、開会演説において地域のテロ及び非合法的政権転覆と闘うため、加盟各国レベルで資金動員し、軍を運用する必要性を訴えた。(9日 O Democrata)
- 27日、6月4日の国民議会選挙で選出された議員の宣誓式が行われた。また、ペレイラPAIGC党首が、国民議会議長に選出された。(27日 Deutsche Welle)

・閣僚の官職名は適宜省略した形とする。(例:タル外務・在外自国民大臣→タル外務大臣など)

セネガル

(内政)

内政一般

- 1日、サル大統領は、自身の三選出馬を期待する地方自治体の首長らに対して3日に国民向けメッセージを出すことを表明し、3日、演説を行った。そこで、憲法上許容されとしても三選出馬はしない意志を表明した。(3日 Le Soleil)
- 3日のサル大統領は国民向け演説において、6月初頭の暴動を国家に対する組織的犯罪と非難し、事件の全容を明らかにすべく調査を継続することを表明した。また、次期大統領選挙を円滑に実施することを約束した。(3日 APS)
- 6日、野党ソコ PASTEF 党首は、France24 にインタビュー出演し、サル大統領が出馬を見送ったのは民主主義者だからではなく、国民的・国際的圧力に屈したためであるとの見解を示し、サル大統領が同党首の大統領選挙への出馬を妨害した場合、描写しがたいほどの混乱が起きるだろうとの発言を行った。(7日 Sud Quotidien)
- 11日、与党連合BBY(サル大統領が首班)を構成する諸政党の指導者は、サル大統領出席の下、会合を開催し、次期大統領選挙に向けた同連合から統一候補者の選定を同大統領に委任することを決定した。(12日 Le Soleil)
- 13日、野党PASTEFの指導部は、ソコ党首を次期大統領選挙の自党の候補者に指名することを決定した。(14日 Sud Quotidien)
- 28日、野党ソコPASTEF党首は、国家に対する内乱罪、国家権力に対する陰謀等の罪で逮捕された。それを受け同党首はハnstを実行することを表明した。(29日 APS、31日 Walf Quotidien)
- 31日、ソコPASTEF党首の逮捕をきっかけに南部ジガンシオール県で発生した暴動により男性2名が死亡した。(8月1日 Le Soleil)
- 31日、ジヨム内務大臣は、暴動を呼びかけ死傷者を含む重大な人的・物的被害をもたらしたことを理由に、政党PASTEFを解体することを公表した。(31日 APS)

(外政)

二国間・多国間関係

- 4日、サル大統領は、カガメルワンダ大統領をサンゴール空港で迎え、二者会談を行った。(4日 大統領府 Twitter)
- 7日、タル外務大臣は、グランディ国連難民高等弁務官と難民問題について協議会を開催した。(7日 外務大臣 Twitter)
- 12日、サル大統領は、プリンケン米國務長官と電話会談を行い、両国の共通利益について協議した。(13日 Le Soleil)
- 16日、サル大統領は、ケニア・ナイロビでAU中間調整会合に出席し、ルト・ケニア大統領と会談した。17日、ルワンダ・キガリでカガメ大統領と会談、国際女性会議に出席、18日、ムセベニ・ウガンダ大統領と会談した。(12日 APS、16-19日 大統領府 Twitter)
- クラコフ駐セネガル露大使は、メディアインタビューにおいて6月中旬に実施されたアフリカ首脳による

- ロシア・ウクライナの平和に向けた和平仲裁ミッションの訪問とその成果を賞賛した。(18日 Le Soleil)
- 21日、タル外務大臣は、トルコのフィダン外務大臣と電話会談を行い、在留セネガル人の現状を含む両国間の協力関係につき協議した。(21日 外務大臣 Twitter)
- 22日、タル外務大臣は、マリ、ニジェール、ブルキナファソの地方自治体の首長を集め、サヘル地域プラス・モロッコ首長会合を開催した。(22日 外務大臣 Twitter)
- 23日、3日間のカーボベルデを訪問中のジョップ国民議会議長は、カーボベルデ国民議会のコレイア議長と議会間協力協定を締結した。(24日 Le Soleil)
- 25日、サル大統領は、27-28日にサンクトペテルブルクで開催される第2回ロシア・アフリカ首脳会合に向けダカールを出発した。25-26日、タタールスタン共和国を訪問した。(25日 大統領府 Twitter、27日 Walf Quotidien)
- 27日、サル大統領はニジェールで発生したクーデタを非難し、憲法秩序への復帰を呼びかけた。(27日 大統領 Twitter)
- 28日、第2回ロシア・アフリカ首脳会合出席のためロシアを訪問中のサル大統領は、プーチン大統領と会談し、両国の友好関係の強化、ウクライナの穀物輸出について協議した。(28日 大統領府 Twitter、APS)

国際情勢・国連機関支援等

- 5日、国防・安全保障高等研究所(CHEDS)は、6-7日に西アフリカの集団安全保障の課題を協議する国際シンポジウムを開催することを発表した。(5日 APS)
- 9日、サル大統領は、ギニアビサウで開催された第63回 ECOWAS 首脳会談に出席し、地域の緊急課題について協議した。(10日 Le Soleil)

(経済)

経済一般

- 6日、アブドゥ・ジュフ国際会議場(CICAD)で投資フォーラム「Invest in SENEGAL」が開幕し、73か国から約3,500名が参加した。サル大統領は開幕式でアフリカとセネガルへの投資促進を呼びかけた。7日、バ首相は閉会式で本フォーラムを機に3億1,500万ユーロの合意が成立したとの総括を行った。(7日 Le Soleil、8日 L'Observateur)
- 5日、ナイジェリア財閥大手ダンゴテ社のアリコ・ダンゴテ社長は、ンバイ同社セネガル支社長とともにサル大統領と面会し、セメントや石油業等の状況について意見交換した。(7日 Le Quotidien)
- 8日、地方高速鉄道(TER)のブレース・ジャーニュ国際空港駅の工事が完了し、サル大統領は完工式に出席した。そこで、既存の15車両に加え、7車両を追加配備する方針を示した。(10日 Le Quotidien)
- 10日、グラディマ石油・エネルギー大臣は、2022年末時点での電化達成率は都市部で85%、農村部で60%となったことを公表し、都市部での電力への普遍的アクセスが達成されつつあると述べた。(10日 APS)
- 労働・社会保障総局は、2022年労働統計報告書を公表し、同年に1,742件の会社設立があり、8,511名の雇用が創出されたことを明らかにした。(12日 Le Soleil)
- 12日、IMFの Gemayel セネガル・ミッション代表は記者会見において、2022年のセネガルの経済成長率が4.7%と減速したのに対し、2023年には5.7%に回復し、セネガルはサブサハラ・アフリカの

中で力強い成長を見せる国の一つであるとの見解を示した。(13日 Walf Quotidien)

(社会)

- 2日、バカロレア事務局は、2023年バカロレア試験の登録者数が151,710人であることを公表した(去年は150,925人)。試験はセネガル全土で4日に始まる。(3日 Le Soleil)
- 12日、中等教育修了資格試験(BFEM)が全土で始まった。受験者数は、189,361人(去年は180,257人)。(12日 Le Soleil)
- 保健省は、10日にクリミアコンゴ熱の3例目が確認され、罹患者はダカール市内で治療を受けていることを公表した。1例目は4月21日、2例目は5月に確認された。(12日 APS)
- 19日、バカロレア事務局は、2023年バカロレア試験の結果を公表した。全国の合格率は51.03%(2022年は51.76%)であった。(20日 Le Soleil)
- 国民教育省は、中等教育修了資格試験の結果を発表した。全国の合格率は76.30%(2022年は70.38%)であった。(27日 Le Soleil)
- 26日、ルーガ市近郊のグアン・サル村の幹線道路においてバスが横転し、24名の死者と約50名の負傷者を出す交通事故が発生した。(27日 L'Observateur)
- 初等教育修了資格試験の結果が公表された。全国の合格率は82.08%(2022年は73.8%)であった。(29日 Le Soleil)

(文化・スポーツ)

- 20日、ダカール・ユースオリンピック2026に向けた支援の事前調査のため、中国政府派遣の調査団がダカールを訪問し、セネガルオリンピック委員会と支援内容について協議した。同調査団は20日ほど滞在する予定。(21日 Le Quotidien)

カーボベルデ

- 1日、ソアレシュ外務大臣は、2024年に開催予定の第4回小島嶼開発途上国国際会議・首脳会合の地域準備会合を8月末に開催することを公表した。(1日 Balai)
- 1日、国家統計研究所は、2023年第1四半期のGDPが前年同期比で6.7%を記録したことを公表した。観光業が25%を占める。(1日 Santiago Magazine)
- 3日、コレイア副首相は、アフリカ大陸の今後について議論するプラットフォームGaucus Africain 2023を7月6-8日にサル島で開催することを発表した。300名を超える各国閣僚、中央銀行関係者らが参加する予定。(4日 Balai)
- 4日、ゴンサルヴェシュ保健大臣は、中国医療団派遣60周年及び保健セクター協力開始39周年を記念式典において、同国の保健システムへの中国医療団の貢献を賞賛した。(4日 Balai CV)
- 4日、在カーボベルデEU大使は、政府と2021-2024年財政支援(1,800億ユーロ)運用会合を開催し、極度の貧困削減に大幅な進展が見られ、満足いく水準である旨発言した。(6日 Noticias do Norte)
- 決済システム・銀行協会は、2022年の国内でのクレジットカード会社VISA及びMastercardによる決済が前年比で1.76倍に増加したことを公表した。(12日 Opais)
- 14日、野党グループからコレイア・エ・シルヴァ政権に出された内閣不信任案は、反対38票(与党)、賛成32票(野党)により否決された。否決を受け、同首相は野党による制度の乱用と野党を批判した。

(16日 noticias do norte)

- 23日から30日にかけて日本で開催される世界水泳選手権に出場するため、4名のカーボベルデ人選手が出発した。(18日 Balai CV)
- 20日、ルラ・ブラジル大統領は、プライアにてネーヴェシュ大統領と会談を行った後、メディアに対し近年ブラジルはアフリカ大陸と疎遠になっていたが、今後は生産的な関係を築いていくとの発言を行った(20日 Expresso das Ilhas)
- 26日、ネーヴェシュ大統領及びコレイア・エ・シルヴァ首相は、ロシアによるウクライナ侵攻を非難しつつ、第2回ロシア・アフリカサミットに参加しないことを公表した。(26日 Expresso das Ilhas)

ガンビア

- バロウ大統領は、サル・セネガル大統領の三選不出馬の決定について、勇敢な決断であると賞賛し、セネガル、西アフリカ地域、さらにはアフリカの民主主義を強化するものと評した。(5日 The Point)
- 7日、国民議会は、「民主主義のためのウエストミンスター基金」の主催で、法の執行状況と目的達成度をモニタリングするセミナーを2日間の予定で開始した。(10日 The Point)
- 7日、米国政府は、在米ガンビア大使館に属する3名のガンビア人外交官が、外交ステータスと矛盾する活動に従事していたとして国外退去を言い渡した。(10日 The Point)
- 9日、ギニアビサウで開催のECOWAS首脳会合において、ギニアビサウ及びガンビアの安定化ミッションの派遣延長が決定された。同ミッションは2016年のバロウ大統領就任時から派遣されている。(10日 Balai CV)
- 11日、バロウ大統領は、今年12月に予定されているイスラム協力機構首脳会合の実行委員を迎え、同会合の受入れ準備ができており、小国でも同会合を成功裏に実施できるとの発言を行った。(12日 The Point)
- 13日、世界銀行は、ガンビアの基礎医療サービスの改善と公衆衛生システムの強化のため、450万米ドルを追加拠出することを決定した。(17日 The Point)
- 14日、農業省は米の自給達成に向け、韓国農業省と米の栽培と供給システムの改善に係る覚書を締結した。(14日 The Point)
- 20日、駐ガンビア中国大使は、第3回中国・アフリカ経済・貿易展に参加予定のガンビア代表団のレセプションを開催し、貿易関係の促進に尽力する旨発言した。(25日 The Point)
- 27日、駐ガンビア中国大使は、国交開設以来中国は300名を越えるガンビア人留学生を受入れるとともに、二国間技能研修を行ってきたことに言及し、さらに奨学金を拡大する旨発言した。(27日 The Point)

ギニアビサウ

- 1日、チュン韓国農業・食品・農村大臣は、ビサウでエンバロ大統領と会談し、韓国は農業インフラ分野でギニアビサウを支援する用意がある旨述べた。(1日 Noticias do Norte)
- 6月4日の議会選挙で勝利した野党グループのPai Terra Rankalは、新議会の開会日について議論すべく、国家選挙委員会総会の招集を要求した。(3日 O Democrata)
- 9日、ビサウにて第63回ECOWAS首脳会合が開催され、エンバロ大統領兼ECOWAS議長は、開

会演説において地域のテロ及び非合法的な政権転覆と闘うため、加盟各国レベルで資金動員し、軍を運用する必要性を訴えた。また、ティヌブ・ナイジェリア大統領が新たな議長に選出された。(9日 O Democrata)

- 9日、ECOWAS首脳会合において、ギニアビサウ平和維持ミッションの派遣延長が決定された。同ミッションは2022年2月の政府庁舎襲撃事件を受け、同年5月より派遣されている。(10日 Balai CV)
- 15日、エンバロ駐中国ギニアビサウ大使は、記者団に対し、ギニアビサウの民間企業は中国市場の利点を享受できていないため、その巨大市場を活用すべきとの見解を示した。(16日 O Democrata)
- 15日、PAIGCの党首であり野党グループPai Terra Rankaの代表ペレイラ氏は、同グループが組織する新政府は社会的安定と平和と保障すべく包摂的な政府にするとの発言を行った。(16日 O Democrata)
- 21日、エンバロ大統領は、サンクトペテルブルクで開催される第2回ロシア・アフリカサミットに出席することを認めた。そこでは穀物輸出ブロック解除の問題が議題の一つとなる可能性があり、アフリカは食料に窮した大陸ではないとの発言を行った。(21日 O Democrata)
- 6月の国民議会選挙で勝利したPAIGCの中央委員会は、ペレイラ党首を新国会の議長候補に指名することを決定した。(23日 O Democrata)
- 27日、6月4日の国民議会選挙で選出された議員の宣誓式が行われた。また、ペレイラPAIGC党首が、国民議会議長に選出された。(27日 Deutsche Welle)
- 29日、第2回ロシア・アフリカサミット出席のためロシアを訪問中のエンバロ大統領は、プーチン大統領と会談し、伝統的に良好な二国間関係を確認した。(29日 タス通信)

(注) 本報は、セネガル、カーボベルデ、ガンビア、ギニアビサウの報道を当館限りでまとめたものです。記事内容は、日本政府やセネガル政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承下さい。

(了)